

マスクと学校生活

学校再開に向けて、マスクで口元が見えない事は、難聴児にとってやはり困った状況です。表情や口の形が見えることで、聴覚に障害を持つ子どもとのコミュニケーションが、より円滑になるよう工夫が必要です。本校でも先生方が、支援方法をまだまだ模索しているところですが、いろいろな工夫を少し紹介します。

*透明衛生マスク



… やっぱり口元が見えることが一番。

でも、ちょっと小さいのが心配。

*フェイスシールド



… 飛沫対策に、大活躍のフェイスシールド。

宮城県立聴覚支援学校のフェイスシールドが、新聞等でも紹介されました。板垣モデル！シート越しの飛沫感染を防ぐと共に、飛沫が床に落ちないように工夫がされています。改良を続けていて現在4型の制作工程が仙台校のHPで紹介されています。是非ご覧ください。

その他、おでこで支えている上からかぶる市販のフェイスシールドもだいが見られるようになりました。これからの時期、暑さ対策も必要ですが、口元が見えて聞こえにくい子どもたちにとってありがたいですね。

*ついたて

県内の小学校難聴学級での工夫を紹介します。

天井からつるした感染防止パネルです。廃材等で透明パネルの枠組みをし、安全性を考慮して、机上には本立てで支えているそうです。



子どもの実態、学校の実態を考えて、今、何を重要視するのか、子どもの様子によってどれを使うのかねらいをしっかりとって選択していくこと、改善していくことが必要ですね。

これからも、いろいろな情報を発信していきます。